



Referee Time

(審判だより72号)

2024.11.17

みなさん、こんにちは。報告が遅くなりましたが、10月9日～14日の間、知念昌平さん
新垣裕己さんペアが佐賀県開催された国民スポーツ大会に参加してきました。

2人より貴重な報告が届いていますので、情報共有をお願い致します。

併せて、審判会議で共有された資料も両Refより提供を受けていますので、全国の動向や
今後のレフェリングに役立ててください。



新垣 & 知念

記

SAGA2024 国民スポーツ大会ハンドボール競技

令和6年10月9日～14日の6日間、上記の大会の審判員として参加しました。

本大会では、成年男子一回戦（富山 vs 埼玉）、成年男子準々決勝（愛知 vs 茨城）、
成年女子準々決勝（大阪 vs 香川）、少年女子準決勝（兵庫 vs 東京）の計4試合を
担当させていただきました。

全国各地から鍛え抜かれたトッププレイヤーが集結する中、「国民に愛されるハンド
ボール」を合言葉に、本大会審判員の重点目標は以下の通りです。

- ① 安心・安全を大前提に、競技規則 8:3 の判断基準を踏まえた 8:4、8:5 及び 8:6 の
適切な運用
- ② スポーツマンシップに反する行為は毅然と対応する。競技規則 8:7 及び 8:8 の
適切な運用

①については、試合開始 15 分でハードプレーとラフプレー等の基準を示し、それを
60 分間持続させることで、選手、役員、観客にとって安心・安全なゲームマネジ
メントを心がけ、ハンドボールの魅力が引き出されるように努めました。

②については、オフENSIBフールに見せかけた選手を退場、繰り返して抗議する
役員を警告にするなど、ハンドボールのイメージを守るため、スポーツマンシップに

反する行為を見逃さないように努めました。

私たちペアの今後の課題は以下の通りです。

○ チームが納得のいかない判定をした場合

- ・ もう一方の Ref が如何にフォローをするのか
- ・ さらに、選手や役員と如何にコミュニケーションをとるのか

本大会の経験を糧にし、今後ともハンドボールの魅力を引き出し、選手や役員と協働したゲームマネジメントができるように、「強さ」と「穏やかさ」を兼ね備えた Ref を目指していきたいです。

最後になりますが、本大会に派遣していただいた県協会審判長の前上里先生、ありがとうございました。

『レフェリーシンポジウム 2024』に参加して

前上里 亘

11月8日（金）～10日（日）の間、広島県立総合体育館会議室、県立広島大学サテライトキャンパスひろしまにおいて、Ramón Gallego (ESP)さん 元・国際ハンドボール連盟審判長 (IHF・PRC)、福島 亮一さん (日本協会審判本部長) 国際ハンドボール連盟 (IHF・PRC レクチャー) の両氏による「レフェリーシンポジウム 2024」に参加してきました。

特に、強調されていたことを、簡単ではありますが、記します。

- ボディランゲージを穏やかにハッキリ示す (選手、ベンチ、観衆に対し)
→ プライベートメッセージにならず、ゆっくりハッキリと。



- 軽度の接触による 7 mT を判定した際、反則したプレイヤーを指すのみ。ボディランゲージはいらぬ。
- 得点後の罰則 (2 分間退場以上) は 100% 明らかな (誰が見ても明らかな罰則とわかる) ことのみ。→ 軽度では (罰則を) 取らずにプレイオン
- 領域、管轄。インカムを有効に使って確認し合う。

「R6 (2024) 審判員の心得 10 箇条」に記載されている内容をインカレや世界選手権等の映像で示しながら、わかりやすい説明でした。あくまでも、試合のカテゴリーやレベルが高い試合を考慮した上での説明なので、これまで通り各カテゴリーに応じた判定を心がける視点は変わりません。非常に有意義な研修会でした。